

「spiritual に dynamic な状態」と似ているかもしれない（とひそかに期待しています。）。

## 2. 健康づくりの法的根拠の必要性など

さて、そうした健康づくりになぜ法律や条例が必要なのでしょう。

私は、効果がすぐに出ないためではないかと思っています。正確には、一人ひとりの健康づくりでは、毎日の生活で効果が出ているのですが、それを把握する指標の方で、平均寿命や死亡率など時間の掛かるものを使っているため、効果がすぐに出ないと錯覚してしまうせいだと思います。

で、行政はそういう長い時間の掛かるものに取り組むのが苦手です。担当者の異動もあるし、予算は毎年要求しないとイケないのに、成果が出るのは30年後です。「もしかすると、1年くらい何もしなくても悪くならないかもしれない。もしかすると、やめてしまっても誰も困らないかもしれない」となってしまう可能性も十分あります。

企業などでも、従業員の健康づくりに対する取り組み姿勢はさまざまですから、同様の考え方で業績優先になるかもしれません（企業が人で成り立っている以上、健康な社員なくして業績向上はないのですが、倒産の危機に瀕していたら、社員の健康づくりをさぼる可能性は高いです。）。

でも、健康づくりの取り組みは、やったりやらなかったりでは成果は上がらないのです。将来にわたって、よりよい取り組みを継続していくことが必要です。そこで、「そうした取り組みのやり方のマニュアル」、「やらなくてもよいのではないかと迷わないためのより所」、「やらなければいけないというシステム」といったことのために、法的根拠が必要なのではないでしょうか。

ということで、その法的根拠の1つ、「三重県健康づくり推進条例」の中身を概観します。健康増進法を前提に、補完的な項目を中心としているので、15条のあっさりした構造となっています。

### (1) 県、県民、事業者の責務、県と市町村との協働など（第1条～第7条）

県の責務として総合行政による計画的推進を、県民の責務として個人の状況に応じた健康づくり

を、事業者の責務として職場の環境整備と県・市町村への協力を、それぞれ定めています。また、県と市町村とがそれぞれ協力し合うことも定めています。

### (2) 基本計画や年次報告の策定・公表（第8条・第9条）

法の健康増進計画たる基本計画と年次報告を定めています。「健康日本21」の三重県計画「ヘルシーピープルみえ・21」がこれに相当します。

### (3) 内部評価・外部評価の実施と改善（第10条）

計画に定めた93項目の指標・数値目標による内部評価と、市町村や県民などによる外部評価とを実施し、改善することを定めています。

### (4) 調査の実施と財政上の措置（第11条・第15条）

計画策定や見直しのためには、根拠となる実態調査が必要です。そういった調査の実施や必要な財政措置を規定しています。

### (5) 情報提供、積極的な事業者の公表、県民健康の日（第12条～第14条）

県民や市町村への情報提供による健康づくり支援、健康づくりに積極的な事業者の公表による健康づくりの推進、9月7日を県民健康の日と定めて普及啓発をしていくことなどを規定しています。

余談ですが、条例には栄養士の責務は出てきません。行政と違って、栄養士は本来的に健康を目的とする専門職種ですから、条例の枠にはめて存在価値を矮小化してはいけません。三重県栄養士会はそういう点で、非常に強力な協働仲間です。「ヘルシーピープルみえ・21」や条例案の検討段階からの参画とともに、職域ごとの活動や、総会や研修会等の独自チャンネルを使って、普及啓発や取り組み推進を積極的にしていただいています。

## 3. 栄養業務に携わる専門職への期待

### (1) 社会環境整備

上述のように、これからの健康づくりは、社会全体で個人の取り組みを支援することが必要で